



# ハンガリー情報

外務省、ブダペスト

2003

## ハンガリー共和国の国家的象徴、国家記念日

面積：93 030 km<sup>2</sup>

人口：10 162 000 人(2002 年 10 月 1 日現在)

隣接国：オーストリア、スロバキア、ウクライナ、ルーマニア、セルビア・モンテネグロ、クロアチア、スロベニア

公用語：ハンガリー語

国家体制：共和国

自治区域：首都、19 県、22 県指定都市、229 市、183 町、2716 村(2003 年 1 月 1 日現在)

首都：ブダペスト(人口 180 万人)

主要都市：デブレツェン(Debrecen、人口 21 万 1 千人)、ミシュコルツ(Miskolc、人口 18 万 5 千人)、セゲド(Szeged、人口 16 万 8 千人)、ペーチ(Pécs 人口 16 万 2 千人)、ジュール(Győr、人口 13 万人)

通貨：フォリント (forint、HUF)

GDP：一人あたり 6876 ユーロ(2002 年) 情報源：KSH

主な河川：ドナウ川(417 km)、ティサ川(597 km)

主な湖：バラトン湖(596 km<sup>2</sup>)、ヴェレンツェ湖(26 km<sup>2</sup>)

最高地表高：ケーケシュ(1014 m) マートラ山脈内

最低地表高：ジャーラレート Gyálarét(78 m) セゲド市近郊

### 国家紋章

上部に聖なる王冠を戴く、盾の形をした国章は 1990 年に受理された法案 XLIV 番によって、ハンガリー共和国の公式な紋章、正式名「歴史的王冠付き小紋章」である。

12 世紀頃、王の紋章は国章でもあった。王の紋章と国章は 15 世紀以降より区別され、現在の国章も、この時代に形が定められた。

国章の一番古い部分は二重の十字架だが、これは 12 世紀末のハンガリー王国硬貨に初めてモチーフとして使用された。もともとこの十字架は三重の礎に乗っていて、デザイン的にこれが国旗の基本になったと言われる。国章左部、赤白二色のストライプは 13 世紀より使用されている。国章は約 600 年前より上部に聖なる王冠を戴くようになった。



### 国旗

ハンガリー共和国の国旗は、同じ幅の赤白緑三本の線によって構成される。

この三色の組み合わせはマーチャーシュ王 2 世の時代、1618 年に



初めて公式に使用された。赤と白の 2 色はそれより以前から王のみならず、多くのハンガリー貴族の旗などによって使用されてきた。緑色は国章の三重の礎がもとになっていると伝わっている。

ハンガリーでは 1830-1840 年、民主運動が盛んになった頃より赤白緑三色の国旗を掲げ、1848-1849 年のハンガリー革命の時、三色の国旗が法律にも定められるようになった。



三つの戴冠式用聖具、王冠、玉珠、杖

赤は力を、白は忠誠心を、緑は希望を象徴する。

### 国歌

ハンガリーの国家は1823年、改革時代の偉大な詩人クルチエイ・フェレンツ(1790-1838)によって作詞され、1828年に初めて出版された。作曲は、作曲家であり指揮者でもあったエルケル・フェレンツ(1810-1893)の手による。1844年、国家のための作曲コンテストが行われ、エルケルがこれに優勝し、この年国立劇場にて初演された。クルチエイとエルケルの作詞、作曲によるこの国家は1903年、法に定めた正式な国歌として認定された。

ハンガリー国歌は8番まであるが、正式な場で演奏され歌われるのは通常、以下に紹介する1番だけである。

神よ、喜びと幸いをもて  
 マジャル人を祝福したまえ  
 神よ、われ敵と闘うとき  
 御守護の手をのべさせたまえ  
 すでに年久しく  
 不幸に追われたるこの民に  
 喜びの日をあたえたまえ  
 過去と未来のために  
 われらマジャル人を  
 罰したまいし神よ

(今岡十一郎 訳)

汝マジャル人よ、揺るがず  
 汝が祖国の忠僕たれ  
 それは  
 汝をいつくしむゆりかごなり  
 汝を覆う墓場なり

この広き世界に  
 ほかに汝の場所はなし  
 運命が幸いを恵むも、汝を打つも  
 ここに生きるの他なし、  
 ここに朽ちるの他なし

(平泉公雄 訳)

### 聖なる王冠

王冠は公式な国家象徴ではないが、特に貴重な文化遺産として重要視されている。

ハンガリーの王冠は聖イシュトヴァーン王に帰属し、国家としての聖なる象徴でもある。後に聖者の列にも加えられたイシュトヴァーン王はハンガリーに王国制度を打ちたてた人物である。国家と教会を組織する彼の事業のシンボルとなったのが西暦1000年に法王シルベステル2世から与えられた王冠である。ハンガリーの正式な王となるには、この聖なる王冠を使用し戴冠式を行う必要があった。

もともと、当時の芸術家達によって描かれている王冠は、現存する今日の王冠とは全く異なる。神聖とみなされてきた現在の王冠が法王からこの国の建国者のために下賜されたと長い間信じられてい



建国の父、聖イシュトヴァーン像

たが、実際は 11 世紀に作られた部分もあるが約 850 年前のものである。ギリシャとラテン、二つの文化的に異なる部分から成るのが大きな特徴だ。歴史上、この宝物は多くの権力者によって略奪され、時にこっそりしまい込まれたため、その所在がわからなくなった事もあった。また、担保として差し出されたり、戦いで敗走に際し埋蔵された事もあった。この王冠が国から遠く持ち出される事もしばしば起こったが、その帰国時には常に国を挙げての祭典が行われた。第 2 次世界大戦後、王冠や王制を象徴する宝石類は 1978 年までアメリカ合衆国に保管された。そしてこの年、当時のカーター大統領の決定に基づき、ハンガリー国民に返還されたのであった。聖なる王冠はその後国立博物館に納められ、2000 年 1 月 1 日以降は国会議事堂にある展示場に移された。

### 国家記念日

ハンガリー共和国では年に 3 回、国家祭日が催される。

3 月 15 日は 1848 年の革命とその後の、自由をめぐる戦いの記念日で、近代国会政治が生まれた記念日である。

8 月 20 日は建国の父、聖イシュトヴァーン王を偲ぶ記念日。

10 月 23 日は 1956 年に勃発したハンガリー動乱と、1989 年に新たに誕生したハンガリー共和国の記念日である。

### 8 月 20 日

騎馬民族の長アルパードはハンガリーに安住の地を求め、マジャール族は定住した。彼の子孫、ゲーザの時代は 10 世紀末、まだ騎馬民族特有の生活をし、自然神を崇拜していたが、当時神聖ローマ皇帝だったオットー 1 世との外交を通じ、キリスト教の教えも徐々に浸透してきた。

彼の息子ヴァイクは洗礼名をイシュトヴァーンと言い、西暦 1000 年クリスマス、戴冠式を終え正式にハンガリー国王となった。戴冠式用の王冠はローマ法王である、シルベステル 2 世により贈られた。この事実によってハンガリーは西欧のキリスト教文化を正式にも受け入れる事になったのである。その後国王は中央政権を構築し、

城を建て、自治区域を選定し、大司教の管区（カロチャとエステルゴム）をつくり、他の西欧諸国に倣った。厳しい法律によりキリスト教文化と個人資産を守り、生活に秩序と道徳をもたらした。また教育制度の改革も行い、新しい教えも精力的に導入し、他の民族との理解を深める事にも力を入れたのである。1038 年に死去したが、この頃にはハンガリーは自立した強い国家としての基盤を築いていた。



1848年のハンガリー動乱を描いたリトグラフ。左から、ベム・ヨーゼフ動乱軍指導者、バッチャーニ・ラヨシュ首相、ペトウーフィ・シャンドル詩人、クラブカ・ジョルジュ動乱軍指導者、コシュート・ラヨシュ政治家、動乱の政治的指導者

教会は 1083 年にイシュトヴァーンを聖者として認め、この時より毎年 8 月 20 日、建国の父聖イシュトヴァーンの功績を称えた祭りが開催されるようになった。ブダペストの聖イシュトヴァーン大聖堂には今でもイシュトヴァーン王の聖なる右手が保管されており、巡礼者の聖地となっている。

### 3 月 15 日

19 世紀初頭、ハンガリーはハプスブルグ帝国の経済的に後れた一部として、独立国ではない立場にあった。当時のハンガリー貴族は再三改革を促したにも関わらず、ウィーンの皇帝はそれに応じる事

なく、ハンガリー復興への道は閉ざされていた。

当時、改革を推進したセーチェーニ・イシュトヴァーン伯爵は進んだ西欧諸国の経済制度の導入を目指し、数々の近代技術と近代思想をハンガリーに紹介した。

財産のない低級貴族だった法律家、コシュート・ラヨシュは 1840 年代初頭からハプスブルグ帝国内のハンガリーの政治・経済自治権の復活を目指し、活動していた。彼は貴族特権の解除、農奴解放、

個人資産の平等化と独立した国家工業の再建に努力した、民主化運動の先駆者であった。

1848 年の春から冬にかけて、ヨーロッパ中で民主化運動が盛んになったが、ようやくハンガリーにも改革を行う法的条件が整いつつあった。1848 年 3 月 15 日、若い知識人や文化人からなるグループが民主改革のデモを行ったが、これに学生や市民が参加し、日が暮れる頃には何万人もの人民で街が溢れ返った。これが革命の始まりであった。詩人、ペトウーフィ・シャンドルは革命の中心人物で、彼の詩「愛国歌」には多くの人びとが感銘を受けた。出版の自由、独立政府の樹立、国会招集、宗教の自由、平等な税制、独立兵力、農

奴解放、エルデーイ地区（現トランシルバニア）との再合併などの国民の総意は「12の要点」に集約された。

同日、コシュート率いる国会議員の訪問団はウイーンに赴き、ハプスブルグ皇帝に謁見した。その結果、ハンガリーの国会の総意は帝国政府にも伝えられ、4月にはハンガリー独立の新法案が国王により認められたのだ。革命は成功し、ヨーロッパで初めて争い無くして民主政府が認められたのである。ハンガリー王国初代総理大臣に就任したのはバッチャーニ・ラヨシュ伯爵であった。

新政権は法的に認められたに関わらず、欧州各国の民主化反対運動が活発になるにつれて、ハプスブルグ家は武器を用いて独立ハンガリーを打ち負かそうとし、ハンガリー政府も仕方なく対抗する事により革命は次第に自由を巡る戦争に発展した。一年間にも及ぶ独立戦争はロシアと結託したハプスブルグ皇帝、フランツ・ヨーゼフ1世の勝利に終わり、ハンガリーは厳しい制裁を加えられた。しかし、民主化の波を完全に無くすことは出来ず、1867年にハンガリーの改革派政治家、デアーク・フェレンツの活躍によってハンガリーは再度オーストリア・ハンガリー二重帝国として独立を勝ち取ったのである。

#### 10月23日

戦後の共産主義政府の経済政策によって1953年には、ハンガリー経済は危機的状況にあった。ソ連軍により統治されたハンガリーの国土は戦後復興が効率的に行われないまま荒れてしまい、生活水準は依然低い状態であった。スターリンの死後、ソ連新政権はハンガリー社会労働党の総書記、ラーコシ・マーチャーシュに新政府の樹立を命じ、彼はナジ・イムレ氏をハンガリーの総理として任命したのである。ナジ総理は1945年にモスクワからハンガリーに帰った人物で、当時のハンガリー経済と政治に強い不満を抱いていた人である。しかし改革を実行するや否や、ラーコシ率いる反対派はナジを解任し、彼は党からも除名されてしまった。この事により国民は大きな不満を抱く事になり、特に

知識層には不満を唱えるものが多くなった。

1956年の秋、学生運動は盛んになり各大学は次々に、ソ連軍のハンガリー撤退、ナジ政権の復活、ラーコシ一派の法廷での裁き、自由な国会選挙、新しい経済政策、最低労働賃金の設定、3月15日を国家祭日にする事を求めた。10月22日、ブダペスト工科大学にて、23日にソ連からの独立を願うポーランドのためにデモを決行することが決定された。

10月23日、このデモがハンガリー動乱の発端となった。その日

命組織も各地で誕生した。

ナジ・イムレ首相は11月1日にワルシャワ条約破棄を宣言し、ハンガリーは中立国になった。ソ連軍は11月4日から本格的な革命制圧にかかり、圧倒的な兵力の前に民主化の試みは脆くも崩れ去ってしまった。カーダール・ヤーノシュによって「反」革命の失敗とソ連派新政府の樹立が国営ラジオでアナウンスされた。その後、大勢の人が投獄され、何百人もの革命参加者が処刑されたのである。1958年、ナジ・イムレと国防大臣、マレーテル・パールも死刑にされ、こ



革命に参加した群衆がナジ・イムレ首相のスピーチを国会議事堂前の広場で聞く様子

運動の参加者は20万人にもものぼり、スターリンの巨大像は倒され、民衆は国営ラジオで政府に対する要求を読み上げようとしたが、局を守る部隊との戦闘が始まってしまった。国営ラジオ局は明朝には民衆により占拠された。

ナジ・イムレは10月24日、再度首相に就任したが、ブダペスト近郊のソ連軍駐屯部隊は首都制圧に向かった。これを機に革命はハンガリー国内全土にて展開するようになり、本格的な戦闘が始まったのである。革命軍と革命政府が組織され、戦後、活動を停止させられた各政党が復活し、新たな革

の間20万人もの人が国外へ亡命した。

1956年のハンガリー動乱は世界史にも残る大いなる事件であり、その悲劇を忘れない為にも、1989年の共和国選挙は10月23日に決行された。ハンガリーは1956年に掲げた目標を33年後にやっと、達成する事ができたのだ。